花の森吉山&奥森吉赤水沢ウォータートレック　報告書

（2018 年 6 月 24 日～27日）

参加者9名　（佐藤定夫妻、塚本夫妻、冨田、佐藤文、山田、小林、遠藤）

今回、我々が目指した森吉山は、秋田県中央東部に位置する森吉町と阿仁町にまたがる約 20 ㎞四方の山域で、昭和43年に約15、000㌶が県立自然公園に指定された。

向山（1454m）を主峰とし、途中仰ぎ見たヒバクラ岳などの外輪山に囲まれている。
標高1000m 付近からはオオシラビソの林にかわり、初夏には雪渓（雪田）からの雪解け水が湿原となり、幾多の高山植物が咲き乱れ、「花の百名山」としても有名なところである。

また、森吉山の北東麓に位置する奥森吉地区の赤水渓谷と桃洞渓谷は、1枚岩盤の火砕流台地が浸食された渓谷に灌木林や森が迫る「天国の散歩道」と言われ、数多くの滝や渓流美が堪能できる。

○　6 月24日（日）　晴

JR常磐線土浦駅、牛久駅、佐貫駅より「ときわ58号」にて東京駅へ。秋田新幹線に乗り換え田沢湖まで移動。駅前レンターカー2台に分乗して、日本一の水深を誇る田沢湖畔の「たつこ像」やウグイの群れを見学の後、手入れされた秋田杉群を見ながら、夕刻、宿泊先の森吉山荘に到着。

楽しい飲み放題でこの先の無事を祈って会食となった。

○　6月25日（火）　晴

森吉山荘出発8:00―ヒバクラ登山口出発8:40

ブナの林に入るとマイズル草、ミズバショウ, チゴユリ、ニッコウキスゲ、ギンリョウソウ、ズダヤクシ、各種のユキザサ、ウスバサイシン、コイワカガミ、タムシバ、ベニバナイチゴ等楽しんで歩いているとさらにはゴゼンタチバナ、ショウジョウバカマ、リュウキンカ、コバイケイソウ、ツマトリソウ、アオノツガザクラ、イワイチョウ、チングルマ、シラネアオイ、ハクサンチドリ、ヨウラクツツジ、ヒナザクラ等湿原のそこここに高山植物のオンパレードで、メンバーはゆっくりと花を観賞しながら、まためいめい写真に納めながら、のんびりと登山。12時半頃、山人平に到着、昼食。

昼食後、ここより内6人で雪渓を渡りながら山頂を目指す。森吉山山頂（1454ﾒｰﾄﾙ）13:50 到着。
その後、登ってきた登山道を下山。　16:40登山口到着。約8時間の山行であった。

ヒバクラ登山口にて

山人平から森吉山を望む

森吉山、頂上付近の雪渓を横切る

森吉山頂上に立つ

○　6 月26日（火）　晴

森吉山荘出発7:30―森吉山野生鳥獣センター出発8:00

森吉山ネイチャー協会会長、宮野氏のガイドでブナの林をトレッキング。

途中、宮野氏の丁寧、かつユーモアを交えた植物、生態解説、はたまた靴擦れなどの応急手当など有意義なガイドに感激しながら、今日のメイン、ノロ川の赤水渓谷歩きに入る。

この日の川は水深10～20センチ位で、長靴に水が入るようなことはないが、普段はもう少し深いとのこと。ただ、途中深さ3m程にもなる甌穴（オウケツ）があちらこちらに口を開けていて、穴に落ちないよう、また滑らないように、用心して歩かなければならなかった。

途中、崖にへばり付くようにトキソウ、上阿仁村で発見された小さな蘭、コアニチドリなどの珍しい花を見ながら、いくつもの変化に富んだ滝を越え、この日のハイライト、芸術作品かと思うような桃洞滝まで来る。みな、自然の作り出す妙に感激の連続だった。

その後はルートを換え、玉川・赤水分岐までウオータートレックをし、赤水渓谷を戻り、更にブナ林を戻り出発地の森吉山野生鳥獣センターに戻る。　16:15着

この日も約8時間のトレッキングであったが、皆初めての経験に興奮気味であった。

桃洞の滝

赤水沢を歩く

コアニチドリ

赤水渓谷もここでさよなら

○　6月27日（水）　大雨と暴風

　この日は前3日間とは大違いの朝から大嵐のような天気であった。
その中を、乳頭温泉まで行き、のんびりと帰路につこうと田沢湖駅まで来たが、秋田新幹線は大雨のため、我々が乗る予定の列車も運休、駅で列車が復旧するのを待つより仕方がなかった。

　何とか1時間遅れで、盛岡まで出て、空いている席を確保し、最終土浦に着いたのは予定より 2 時間程遅れの 21 時20分頃であったが、無事に着いて、ほっと一安心。

○　最後に

　主目的の森吉山登山、赤水沢ウオータートレックは好天に恵まれ、皆、大満足の様子でした。
ここに計画立案、交通機関の手配、宿の申し込みから全員の靴の配送まで、全てを佐藤定男氏に手配していただきました。周到で綿密な行程のお陰で、皆、ウオータートレックという初めての楽しい経験もできました。厚く御礼申しあげます。

　また引用の写真も佐藤氏から拝借致しました。ありがとうございました。

（　記　　遠藤　純子　）